

## 第6回 大田区基本構想審議会第3部会 議事要旨

日時	平成20年1月18日(金) 午後6時~8時
会場	大田区役所 202 会議室
出席者	伊藤委員(部会長)、田中委員(部会長代理)、熊倉委員、中島委員、 奈須委員(五十音順)

### 1. 開会

### 2. 部会長挨拶

### 3. 配布資料の説明

### 4. 審議

第3部会の基本目標・個別目標・基本計画で進めるべき施策について

#### 【基本目標】

- ・ キャッチフレーズ、説明文ともにほぼ完璧だと思う。
- ・ 原案で決定とする。

#### 【個別目標1】

- ・ (説明文について)「人にやさしい」との表現に「安全・安心」が含まれるので、( )に入っている「安全・安心の暮らしやすいまち」は必要ない。
- ・ (キャッチフレーズについて)「だれもが」という表現の中に「一人も残さず」という意味が含まれているし、「人にやさしい」の中に「人とのつながり」も含まれる印象がある。「人にやさしいまち」というのはメンタル的なものを表現していると思うので入れてもよいのではないか。
- ・ 「生活者主体」が今のキーワードの一つ。一人ひとりの生活をどう支えていくかが政策課題になっているので、「暮らしやすい」を入れてはどうか。
- ・ 理念的には「人にやさしい」の方が「暮らしやすい」よりも高い。その中に「暮らしやすさ」は入ってくると思う。どちらかといえば「人にやさしい」の方がよいのでは。
- ・ (事務局)基本目標が「地域力と行政の連携がつくる」となっているので、これをそれぞれの個別目標から引き出すことを考えた。結局、「人にやさしい」と「暮らしやすい」のどちらを選択するかは決まらなかった。基本目標3とのつながりを意識して議論いただきたい。

- ・ 基本目標では「人」「環境」が入ってくるので、「人にやさしい」という部分を地域力で語るのがよい。キャッチフレーズに「人にやさしいまち」を入れて、説明文では「安全・安心の暮らしやすいまち」とするのがよいのではないか。
- ・ キャッチフレーズは、「地域力が、区民主体の人にやさしいまちをつくりま  
す」に決定する。
- ・ 説明文は、「・・・地域力として結集することで、安全・安心の暮らしやす  
いまちをつくります。」とする。

### 【個別目標 2】

- ・ 地域からも環境対策はやっていかないといけない。このままの表現でもよいが、キャッチフレーズに環境という言葉をつけてほしい。
- ・ 説明文には「環境と経済」を残したほうがよいと思うが、それを繰り返しキャッチフレーズに入れるのは重複するのでどうか。
- ・ 「環境と経済双方における」をとると、キャッチフレーズとしては弱いのではないか。
- ・ 環境問題は企業の経済活動を抜きには考えられない。環境部分だけの持続可能性にしまうと企業の役割を薄れさせてしまう。経済が持続可能になるためには環境も健康も守らなければならない。CSR をきちんとやるのが企業の持続可能性をもたらすと思うので、両方を入れた方がよい。
- ・ 環境と経済の両方を入れるべき。これがないと、何が持続可能かが見えない。
- ・ キャッチフレーズは、「私たち区民が、環境と経済双方における持続可能な  
まちをつくる担い手です」とする。
- ・ (説明文について) たくさんの特徴がある中で、大田区の特徴を「ものづくり」としてよいかどうか。
- ・ 大田区からものづくりを取ってはだめ。ものづくりを「はじめとする」という中にそれ以外の要素も含まれていると読み取れるのでこの表現はぜひ残すべき。
- ・ 説明文は大変よい文章にまとまっているので原案どおりでよい。
- ・ 説明文は原案どおりとする。

### 【個別目標 3】

- ・ (キャッチフレーズについて)「区は、」という表現が区民には分かりにくいのではないか。「区政」という表現がよいのではないか。
- ・ (事務局) 作業部会でも議論したが、「区政」とすると様々なイメージが入り込んでしまい、かえってわかりづらいという意見が出た。また、キャッチフレーズの文末に「区政を実現します」とあるので、「区政」を頭に持ってくると言葉が重複し、すわりが悪くなると考えた。

- ・ そこまで議論されているのであれば、原案どおりでよい。
- ・ キャッチフレーズ、説明文ともにこれまでの議論をふまえて適切に表現されている。「区は、」というの悪くないと思う。
- ・ キャッチフレーズは「区は、地域を支え、効率的で活力ある区政を実現します」とする。
- ・ 説明文の「自治体（政府）として」というフレーズについて、区は区民に近い、自分たちのことは自分たちで積極的に関与していくというイメージを与えることが望ましいので「自治体（政府）」との表現はよい。
- ・ 自治体が大きく変わらないといけないことの一つが自己決定、分権ということ。それをこの文章の中に盛り込んでいきたいので、「政府」という表現がよいのではないか。
- ・ 国でも分権改革の議論があり自治体を「政府」と呼ぶ文言が入っている。自立していくニュアンスを持った言葉としても認識されていくと思う。ただ、議論の経緯を分からない人には突飛な印象を受ける可能性もある。
- ・ どちらかに絞るのではなく、「自治体（政府）」というのがよいと思う。
- ・ （事務局）作業部会では「身近な政府である基礎的自治体として」という表現も検討された。
- ・ （事務局）区民に分かりやすくするのであれば、括弧書きで（政府）としてもよいと思う。
- ・ 「政府」が入っているほうが、自治体が独立していて強いイメージが感じられる。
- ・ 自治体が区民を含めて自ら決定できるという趣旨は、原案の説明文で表現できている。20年後を考えれば自治体という表現をあえて入れなくてもよいのではないか。「自律した政府」という文言が重要なのではないか。
- ・ 説明文の中は「区民に最も身近な自律した政府として」とする。表現が強すぎるなど、全体会で指摘があれば見直しをする。
- ・ （説明文について）「地域自らが地域の課題を解決できる」という表現があるが、「地域自ら」では主語が曖昧なので「区民自ら」の方がよい。
- ・ 「区民自らが地域の課題を解決できる」と変更する。

#### 【基本計画で進めるべき施策】

- ・ 個別目標1で「自治会・町会等の自主的・自立的な活動への支援」とあるが、ここに「NPO・活動団体への活動支援」も入れてはどうか。
- ・ 自治会・町会は特に力を入れていただきたいという観点から、「自治会・町会等」という表現でご理解をいただいたほうがよいのではないか。原案どおりの方が分かりやすいと思う。
- ・ 広く捉える必要があるため、やはり NPO・活動団体といった言葉も入れたほうがいい。

- ・ 次回までにお考えをいただき、ご意見をいただきたい。

#### 大田区における「地域力」の基本的な考え方について

- ・ 「地域はそこに住み、働き、学ぶ」という表現があるが、働いている人の中には区民ではない人もいる。地域には区民ではない人も関わっていくと感じている。
- ・ (事務局) 行政で区民をとらえたとき、基本的には働きに来る人や学生も区民と位置づけている。企業の力も大事。企業はここに住んでいる人ばかりでもないし、本社を持っていない企業とも連携していかなければならないということでこのような表現になっている。
- ・ 「にある「区民一人ひとり」という表現は、事業者等を含めた表現には見えない。区民以外の人も含めた表現の方がよい。
- ・ 「区民」= 住民票や税金を納めている人だけではなく、法人も区民として入れた方がよいということ。「地域に関するすべての事業者、団体、区民」という表現にしてはどうか。
- ・ 「地域づくりに参画する一人ひとりの力」の方が分かりやすい。区民以外の人も含む感じがする。
- ・ すべての区民の「すべて」を削除し、「その地域に関わる一人ひとりによって」と表現を修正する。
- ・ (事務局) 基本構想では「区民」の定義をさせていただきたい。事業者、昼間人口も含めた区民とする方向でまとめたい。
- ・ 「規範意識」をどこかに入れることが望ましいのではないか。基本目標の説明文に「規範意識」が表記されており、これは適切と思う。規範意識をもっと出したほうがよい。
- ・ について「人やまちへの思いやりの心と規範意識を持ち、社会的なルールを尊重する」との表現に変更する。
- ・ の「一人ひとりの力」は能力も含めたものだと思うが、そうした能力を合わせることで地域力が現れるという印象がある。
- ・ (事務局) 一人ひとりが力を持っており、これまでは個別だったものを、これからは結集していくことをイメージした。
- ・ 一人では地域力とは言えない。特別優れた人に期待をするのではうまくいかない。個人の力を結集したものが地域力ではないか。
- ・ 一人ひとりの力を結集することで地域力が生まれる、という流れの方がよい。多くの人が力を合わせることで地域力。
- ・ 「結集することが地域力を生み出す」との趣旨に変更する。具体的な文章については、ご意見を踏まえて次回検討したい。
- ・ についてはこれでよい。

その他

- ・ 次回は2月8日(金)午後6時。第4回審議会は2月29日に変更。
- ・ 次回の部会はそれぞれの審議が残っているため、第2部会と合同では開催しない。

5. 閉会

以上